

---

**この宇宙(よ)全ての悪、混沌(せかい)をたゆたう。**

ネア

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

この宇宙全ての悪、混沌せかいをたゆたう。

### 【Zコード】

Z3019P

### 【作者名】

ネア

### 【あらすじ】

時にミスで、時に故意に「神」は人を死なせ、詫びとして、または愉悦として、生き返らせる。

ちよつと傲慢に過ぎるんじゃないかな?そんなのが神を召喚るのは。

## 序文（前書き）

初投稿。つたない文書で遅筆ですが、お暇な方はどうぞお付き合い下さい。

## 序文

あれらは我々の理解の及ばぬもの。  
触れてはならぬもの。  
禁忌……狂氣。恐怖。

水底の館にて眠る海魔の主

凍れる湖にて黙す黄衣の王

赤き星にて猛る生ける火炎

混沌と秩序を隔てる全てであつたる神

そして……慈悲深くも隠されしもの。

果たして、我等は「探求」を続ける。恐怖を狂氣で打ち消して。

さあー深淵の宇宙の星々よー！

眠れる狂氣はいつ目覚める？

管楽器の音の止まるときへ

こつわうの神よ畏れよー！

力無き人の子よ恐れよ！

異形の神に対するは、旧き印もつ神々だけと知れ！

――作者不明の詩より

「転生モノ」って知ってるかい？

そう、死んだ筈の主人公が「神」やら「死神」やらのミスだった。生き返らせるのは無理だから、とか言ってチートする話だ。

ミスなら良いんだが（よくはないが）、たまにわざと死なせて愉悦を貪る神もいる。

力を手に入れて、それを愉悦にする「主人公」がいる。

俺も、そうなつていたのかもしれない。

でも違つた。

そつとな、

どちらかと言ひながら、「憑依」？

いや、あれはきっと「帰還」だった。

## 序文（後書き）

さて、オリ主トリップモノにするつもりですが、トリップ先と主人公の容姿どうしよう。

## 回響の章 —(前書き)

プロローグから一ヶ月……。Orz

平凡な人生。

人の生に幸、不幸はあれど、人知の外の出来事さえ無ければそれは平凡な人生と言えるだろう。

俺もきっとそうなるはずだった。

秋の日が暮れるのは早く、既に暗闇に包まれた公園で俺は肉まんを頬張つていた。

誰もいない公園は不気味であると同時に、星と月とわずかな街灯に照らされた公園は、どこか不思議な安心感を感じた。

そもそもなんでこんなところで肉まんをかじっているのか?  
今日一日の記憶をたどる。

朝は至つて普通の日覚めだつた。

俺は床の間に布団を直に敷いているため、布団をたたんで仕舞う。

一階にある部屋から降りて「おはよっ」と言つてみて氣づく。

両親は昨日から、商店街のくじ引きで当たったパリ一泊二日の旅行に出で、家に居ない。

やれやれと首を振りつつテレビをつけ、朝飯になりそうな物はと冷蔵庫を漁るも、結局食パンしかなかつたのでマーガリンを塗りたくりかじる。

テレビでは都市部のゲリラ豪雨や他国でのテロなど物騒なものから、地域の祭など心温まる物まで様々なニュースを映している。

今日の天気が一日晴れだとこいつことを確認してテレビを消す。

朝の行事を一通り済ませると、鍵をかけて家を出る。

高校での俺のポジションはかなり地味だ。

才覚、顔、共に平凡。更には不思議なことに、どんなに物覚えがいい人間でも、俺のことをハツキリ覚えられる人間が稀であるのだ。

そんな地味な一日を終えると、特に部活動に所属していないので帰宅する。

帰りに商店街に寄る。

今日から自炊しなくてはいけないのだ。毎日弁当で済ませるのでは余りに寂しい。

だが当てつけの様に何処も定休日だった。

気落ちする自分を首を振つて振り払うと、少し離れたスーパーまで足を延ばすことにする。

スーパーまでの道のりを歩いていると、なんだかすごい人を見つけた。

髪を赤く染めたかなりワイルドな顔立ちの青年だ。

こちらをじっと見つめているのでギョッとしたが、瞬きする間に消えてしまった。

見間違いかと考え、また歩きだす。

スーパーに着き、田欲しい物は無いかと探していると、スーパーの店長（緑と青のハテなシャツだ）がやはりじっとこちらを見ている。

なんだか居心地の悪さを感じていると、その人は俺に一礼して去つていった。

理解が及ばずしきりに首を捻る。

何処かで会つただろうか。

結局分からず仕舞いでスーパーを出て、帰り道を歩く。

するとアラブ系の衣だらうか？を着た男性が雑居ビルの前に立つて  
いる。

目を伏せがちに前を通り過ぎる。

そのために俺は、その男性がやはり頭を下げているのに気が付かな  
かった。

家まであと僅かな所まで来て、今まで見なかつた古本屋を見つけた。  
まだ時間もあるし、少しならいいかと戸を潜る。

そこには店主らしき長髪の男性と、眼鏡をかけた男性がいた。

何やら話しかんでいたが、こちらを見て酷く驚いた様だった。

準備中ですか、と問うと、ええ、と返されたので仕方無しに外に出  
る。

思いの外時間が経っていた様で既に外は暗い。

小腹を満たすためにコンビニで肉まんを買い、冒頭の公園に至るのである。

包み紙をくずかごに放り込んで立ち上がる。

買い物袋にはカレーの材料。家まではあと500メートル程だ。

その時だった。

トラックが突っ込んできたのは。

天界は数百年に渡つて魂の管理を行つてきた。

宇宙の創世期から混沌より理を創つた神々は既に無く、人の信仰の対象である神々から新たな世代へと移つていた。

一世代目は戦乱の覇権を争つた時代。欠点は混沌に満ちすぎていたこと。

二世代目は神話の時代。欠点はトラブルが多くなったこと。

三世代目は現代。欠点は……ゆとりだったのだ。神が。

「最上神様。」ひりにサインを

「ああ」

執務室では金髪に金銀妖瞳<sup>〈ホロクロロルク〉</sup>、いまはオッドアイと言つたほうがわかりやすいのだろうか、右目が赤で左目が青といった姿の男がメイド服を着た女性から書類を受け取る。

「暇だなあ」

男がぼやく。その表情は至極つまらなそうであった。

「暇だ」

先程とは異なりハッキリとそう言つた。

「よし。いい」と思い付いた

男は何やら書類と「一ヒー」を何処からか取り出す。

そしてわざとらしく「一ヒー」を書類に零したのである。

よくある『トランプレー』とやらをやつてみることにしたのだ。

彼は神々の間で流行つてゐる転生を試みたと考えていた。

そして『彼』の魂を呼び出したのである。

「……何処だ？」

周囲には無数の星が輝いており、銀管楽器の音が聞こえる。

身体の感覚があやふやなのに、妙に周囲の景色がハッキリしている。

眠つていながら起きている。  
忘却しながら記憶している。

白痴ながら賢識である。

そんな感覚。

その時。『』かへ引っ張られるような感覚がして、意識を薄れさせていった。

一方天界では神が冥界の門を開き、『彼』の魂を呼び出せんとしていた。

神々しい光が溢れ出し、その魂を引き寄せる。

そして『彼』はそこに戻れる。

当初、神は樂觀していた。人の魂ならば神に敵う物ではない。  
逆らうならば地獄のそこに追いやつてやればいいと。  
そして『門』を開いたのだ。

しかし魂がここちるに近づく程に、『恐怖』が増大する。

馬鹿な。

神が恐怖するだと！？

人の魂ごときに！

「馬鹿な！」

気がつけば叫んでいた。そうしなければ恐怖に侵されそうで。

光りが収束するとそこには『混沌の化身』が、いや『混沌そのもの』  
が立っていた。

なんだ？

白い部屋だ。目の前に何やら美形の男がいる。  
しかし喉やら頭やらを抑え、なにやら苦しむのである。

介抱しようとしたが、ますます苦しがる。

更には憎悪と恐怖の入り混じった視線を向けられる。

困惑していると、目の前の美形が突如手を振る。

すると足元の床が消失し、またしても意識を失うのだった。

## 回帰の章 一（後書き）

作中で「白痴」という表記が有りますが、これはラヴクラフト神話の中とある神性が『盲目白痴の神』と表されているため、本作でもそう表記しております。ご不快に思われた方もいらっしゃるかも知れませんが、『容赦下さい。

さて、とりあえず最初の世界は『魔界都市』です。

しかし、ここはさらっと流し、主人公について把握したら、本格的に入ろうと思います。

しかし……何処に行こう？「見てる人、いますか？」な状態で聞くのも何なんですかけど、希望有りますかね。

持つてゐる有名処といつたら「ワンピース」の空島までとか、「鋼の錬金術師」とか、「ゼロの使い魔」の一巻だけとかしか無いんですが。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3019p/>

この宇宙(よ)全ての悪、混沌(せかい)をたゆたう。

2011年1月28日13時23分発行